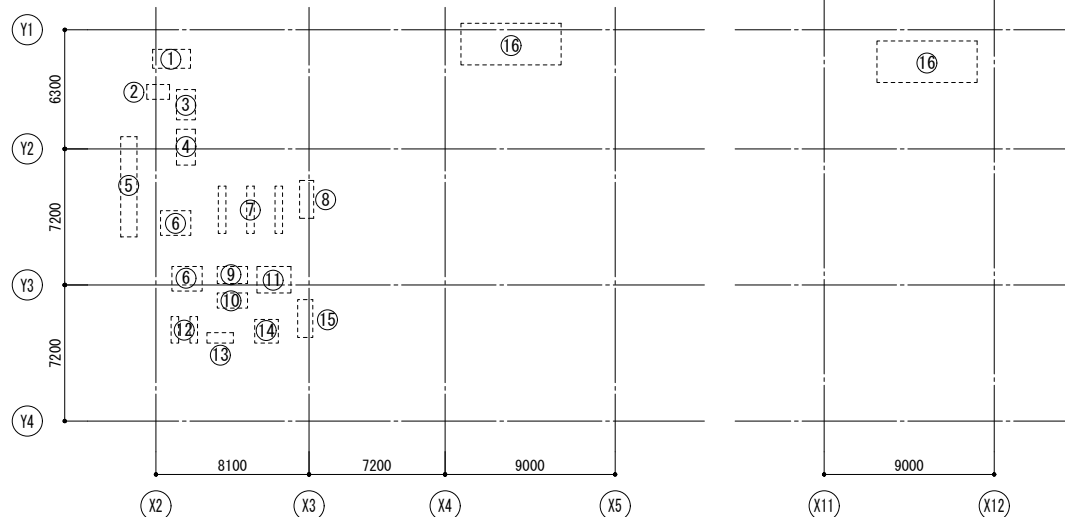


1階設備機器伏図 1:200

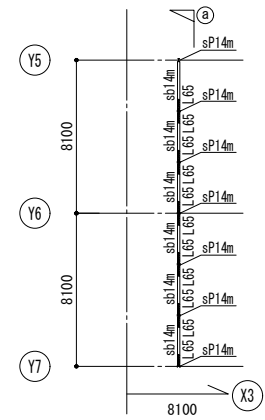
番号	機器重量(kN)	基礎サイズ(mm)
1	2.0	1000x2000x200
2	1.0	800x1200x150
3	3.0	1000x1600x300
4	5.0	1000x1900x300
5	5.6	900x5300x200
6	3.0	1600x1300x300
7	150	400x2400x500 x3個
8	2.0	800x2000x150
9	2.0	1600x900x300
10	3.0	1600x800x300
11	4.0	1800x1400x300
12	20.0	400x1400x500 x2個
13	2.0	1400x550x300
14	20.0	1250x1250x200
15	2.0	800x2000x150
16	21.0	5300x2200x150



1階床梁伏図 1:200

- 共通事項 (特記なき限り)
- 設計GL = T.P.+280.3 m とする。
 - 1FL = 設計GL+200 とする。
 - スラブは S1 とする。
 - スラブ主筋方向は Y方向とし、←は X方向 を示す。
 - スラブ・小梁天端は FL-10 とする。
 - 大梁天端は FL-300 とする。
 - 壁は W18 とする。
 - は スラブ・小梁天端 FL-100 とする。
 - は スラブ・小梁天端 FL-300 とする。
 - は スラブ・小梁天端 FL-900 とする。
 - は スラブ・小梁天端 FL-50 とする。
 - は スラブ・小梁天端 FL+100 とする。
 - スラブ下 (または天) 端と梁天 (または下) 端とレベルが生じる場合は梁天 (または下) 端を 増打 とする。
 - X10-X11間にコンストラクションジョイントを設ける。
 - コンクリートの乾燥収縮を考慮し、1ヶ月程度の期間をあけてコンクリートを後打ちする。


〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第344460号 構造設計一級建築士 建築士証交付番号 第9667号 足立 幸多朗	工事名称	那須塩原市新庁舎建設工事		図面番号	
	図面名称	【庁舎】1階床梁伏図		A1=1/200 A3=1/400	種別
	発注者	那須塩原市		S- 104	



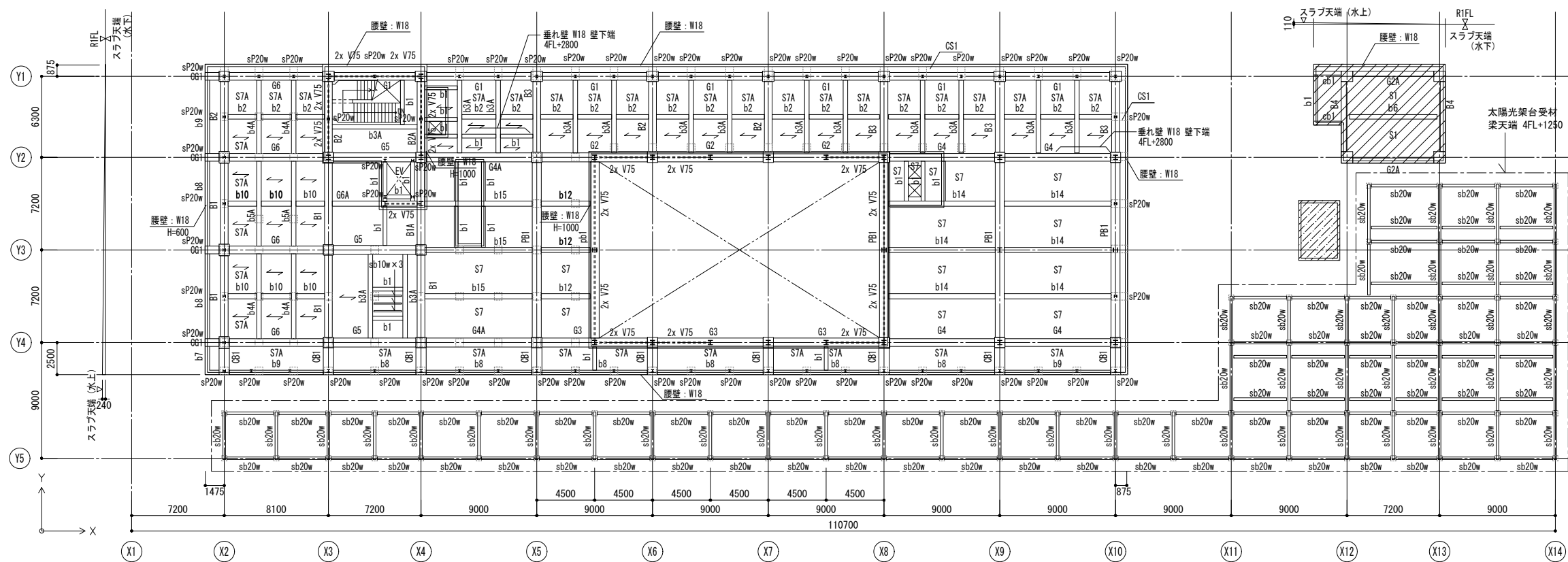
共通事項（特記なき限り）

- 。鉄骨梁天端は FL-1500 とする。

番号	機器重量(kN)	基礎サイズ(mm)
1	21.0	5300x2200x150

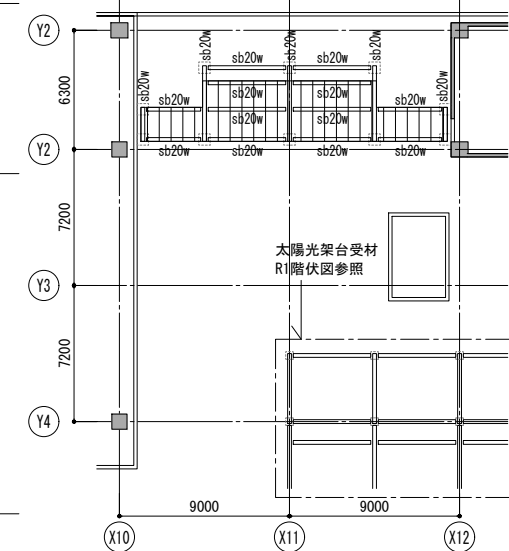
-  印は 機械式定着 を示す。(要領はS-126図参照)
- X10-X11間にコンストラクションジョイントを設ける。
コンクリートの乾燥収縮を考慮し、1ヶ月程度の期間を
あけてコンクリートを後打する。
- 梁下軒天パネル受けとして、パネル両端に C-100x50x20x3.2
を設け、直行する梁に接続する。

<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第344460号 構造設計一級建築士 建築士証交付番号 第9667号 足立 幸多朗	工事名称	那須塩原市新庁舎建設工事		図面番号	
	図面名称	【庁舎】2階床梁伏図 A1=1/200 A3=1/400	種別	構造	
	発注者	那須塩原市		S- 105	



R1FL 階床梁伏図 1:200

- 共通事項 (特記なき限り)
- 。スラブは S6 とする。
 - 。スラブ主筋方向は Y方向とし、← は X方向 を示す。
 - 。スラブ・小梁天端は 水勾配によるもの とする。
 - 。大梁天端は FL±0 とする。
 - 。スラブ下 (または天) 端と梁天 (または下) 端とレベルが生じる場合は梁天 (または下) 端を 増打 とする。
 - 。▨ は スラブ・小梁天端 FL±0 (水下) ~ +80 (水上) とする。
 - 。▨ は スラブ・小梁天端 FL±0 (水下) とし、スラブ上に勾配コンクリートを設ける。
 - 。▨ は 屋上配管取出口 を示す。

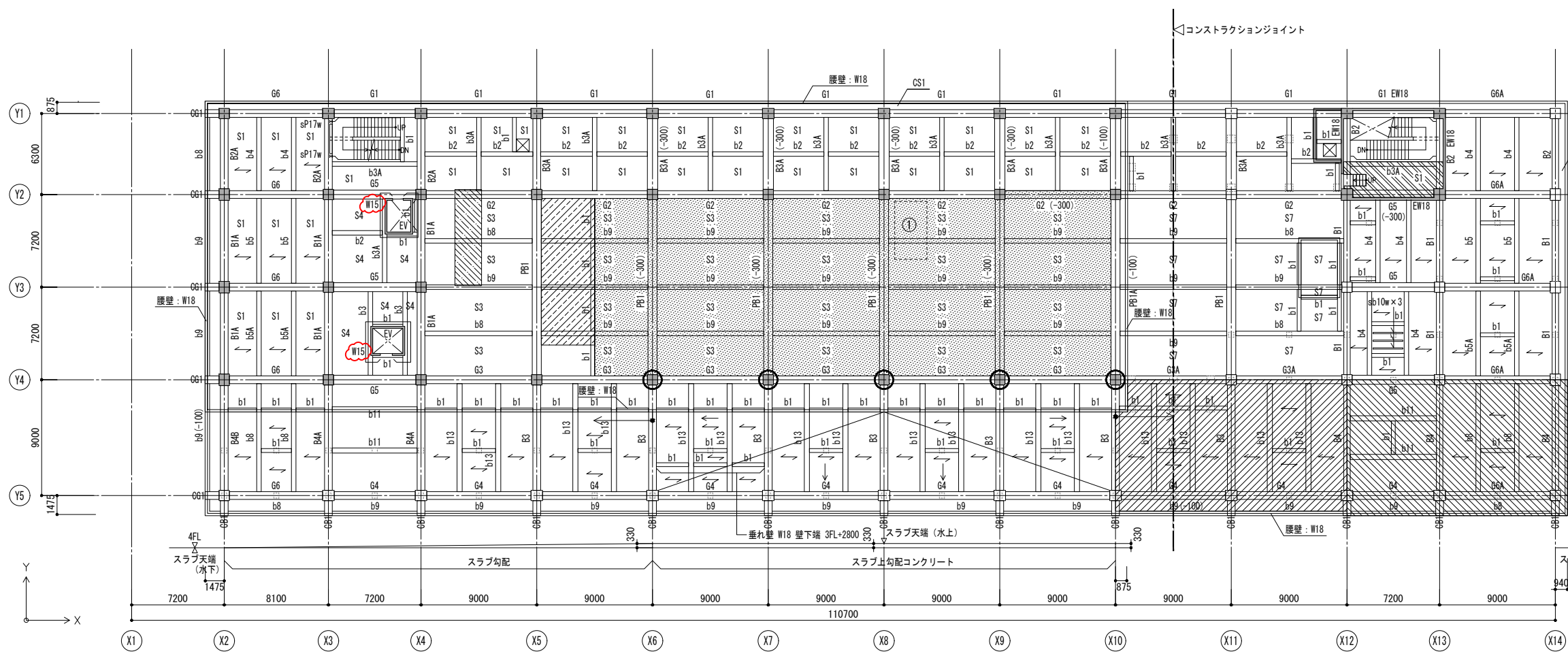


R1FL+1250レベル伏図 1:200

- 共通事項 (特記なき限り)
- 。梁天端は R1FL+1250 とする。
 - 。▨ は 床材: ファインフロア設置箇所 を示す。

4階床梁伏図 1:200

- 共通事項 (特記なき限り)
- 。スラブは S6 とする。
 - 。スラブ主筋方向は Y方向とし、← は X方向 を示す。
 - 。スラブ・小梁天端は FL-10 とする。
 - 。大梁天端は FL-10 とする。
 - 。壁は W18 とする。
 - 。 () 内は FLからの 梁天端 を示す。
 - 。▨ は スラブ・小梁天端 FL-100 とする。
 - 。▨ は スラブ・小梁天端 FL-300 とする。
 - 。▨ は スラブ・小梁天端 FL+100 とする。
 - 。▨ は スラブ・小梁天端 FL+1200 とする。
 - 。▨ は スラブ・小梁天端 FL+150 とし、スラブ上に勾配コンクリートを設ける。
 - 。▨ は スラブ・小梁天端 FL±0 とし、スラブ上に勾配コンクリートを設ける。
 - 。スラブ下 (または天) 端と梁天 (または下) 端とレベルが生じる場合は梁天 (または下) 端を 増打 とする。
 - 。○ 印は 機械式定着 を示す。(要領はS-126図参照)
 - 。X10-X11間にコンストラクションジョイントを設ける。
 - 。コンクリートの乾燥収縮を考慮し、1ヶ月程度の期間をあけてコンクリートを後打ちする。
















番号	機器重量 (kN)	基礎サイズ (mm)
1	21.0	5300x2200x150

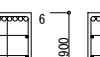

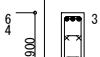
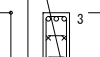


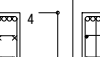
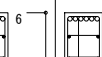
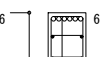
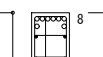


〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第344460号 構造設計一級建築士 建築士証交付番号 第9667号 足立 幸多朗	工事名称 図面名称 発注者	那須塩原市新庁舎建設工事 【庁舎】4・R1階床梁伏図 A1=1/200 A3=1/400 那須塩原市	図面番号 種別 構造
			S- 107





小梁リスト	1:50	共通事項（特記なき限り） ・幅止筋は D10@1000以内 とする。
-------	------	---------------------------------------

符 号	b1・cb1	b2	b3	b3A	b4			b4A			b5	
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	他端	中央	連梁端	他端	中央	連梁端	端部	中央
断 面												
B × D	300x500	350x500	350x750	350x750	350x750			350x750			350x750	
上端筋	3-D19	4-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	4-D22	6-D22	4-D22	3-D22
下端筋	3-D19	4-D22	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22	3-D22	6-D22	6-D22	4-D22	3-D22	4-D22
あばら筋	2-D10 #200	2-D10 #200	2-D10 #200	2-D10 #200	2-D10 #200			2-D10 #200			2-D10 #200	
腹 筋			2-D10	2-D10	2-D10			2-D10			2-D10	
備 考												

符 号	b5A		b6	b7	b7A	b7B	b8			b9		b10
位 置	端部	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	他端	中央	連梁端	端部	中央	全断面
断 面												
B × D	350×750		350×850	350×900	350×900	400×900	350×900			350×900		400×500
上端筋	6-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	6-D22	6-D22	4-D22	3-D25
下端筋	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22	6-D22	4-D22	6-D22	6-D22	4-D22	4-D22	6-D22	3-D25
あばら筋	2-D10 @200		2-D10 #200	2-D10 #200	2-D10 #200	2-D13 #200	2-D10 #200			2-D10 #200		2-D13 #200
腹 筋	2-D10		2-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10			4-D10		
備 考												

符 号	b11	b12			b13	b14			b15		b16		
位 置	全断面	他端	中央	連梁端	全断面	他端	中央	連梁端	端部	中央	他端	中央	連梁端
断 面													
B × D	400x750	400x750			400x850	400x900			400x900		500x900		
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	6-D22	6-D22	10-D22
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D22	6-D22	6-D22
あばら筋	2-D13 #200	2-D13 #200			2-D13 #200	2-D13 #200			2-D13 #200		3-D13 #150		
腹 筋	2-D10	2-D10			2-D10	4-D10			4-D10		4-D10		
備 考													

符 号	b17			b21	b22	b23	b24		b25	b26		
位 置	他端	中央	連梁端	全断面	全断面	全断面	端部	中央	全断面	他端	中央	連梁端
断 面												
B × D	500x900			300x1800	350x1800	350x1800	350x1800		500x1800	500x1800		
上端筋	6-D22	6-D22	10-D22	3-D19	3-D22	4-D22	5-D22	4-D22	6-D22	6-D22	6-D22	8-D22
下端筋	8-D22	8-D22	6-D22	3-D19	3-D22	6-D22	4-D22	5-D22	8-D22	8-D22	8-D22	6-D22
あばら筋	3-D13 #150			2-D10 #200	2-D10 #200	2-D10 #200	2-D13 #200		3-D13 #200	3-D13 #150		
腹 筋	4-D10			10-D13	10-D13	10-D13	10-D13		10-D13	10-D13		
備 考												

符 号	b27		cb21	b18
位 置	端 部	中 央	全断面	全断面
断 面				
B × D	500x1800		350x1800	700x700
上端筋	8-D22	6-D22	5-D22	6-D25
下端筋	6-D22	8-D22	4-D22	6-D25
あばら筋	3-D13 #200		2-D13 #200	2-D13 #150
腹 筋	10-D13		10-D13	2-D10
備 考				




共通事項（特記なき限り）

- ・直押え部分は スラブ先端増打 ㊦10 とする。
- ・土に接するスラブ下地床は 捨てコンクリート ㊦50、砕石 ㊦60 とする。
- ・スラブ段差・範囲・寸法は、仕上額、開口、および設備等の取合いを考慮し決定すること。必要に応じて小梁等で補強できるものとする。小梁、スラブなどの各種部材の位置、範囲は、監督職員の承認を得て軽微変更の扱いとなる対象の範囲内あるいは補強方針に準じて行なうものとする

床版リスト

符 号	版 厚	層	短辺方向（主筋方向）	長辺方向（配筋方向）	備 考
S1	150	上	D10・D13 @200	D10 @200	モチアミ配筋
		下	D10 @200	D10 @200	
S2	150	上	D10・D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
S3	150	上	D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
S4	150	上	D13 @200	D13 @200	モチアミ配筋
		下	D13 @200	D13 @200	
S5	150	上	D13 @150	D13 @150	モチアミ配筋
		下	D10・D13 @150	D10・D13 @150	
S6	180	上	D10・D13 @200	D10 @200	モチアミ配筋
		下	D10 @200	D10 @200	
S7	180	上	D13 @200	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下	D10・D13 @200	D10・D13 @200	
S7A	180	上	D13 @150	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下	D10・D13 @150	D10・D13 @200	
S8	200	上	D13 @150	D13 @200	モチアミ配筋
		下	D10・D13 @150	D10・D13 @200	
DS1	150	上	D10・D13 @200	D10 @200	フラットデッキ付き モチアミ配筋
		下	D10 @200	D10 @200	
S21	250	上	D13 @150	D13 @150	モチアミ配筋
		下	D13 @150	D13 @150	
S22	250	上	D13・D16 @150	D13 @150	モチアミ配筋
		下	D13 @150	D10・D13 @150	
S23	250	上	D16 @150	D13・D16 @150	モチアミ配筋
		下	D13・D16 @150	D13 @150	
CS1	200	上	D13 @100	D10・D13 @200	モチアミ配筋
		下	D13 @200	D10・D13 @200	
CS2	200	上	D13 @100	D13 @200	モチアミ配筋
		下	D13 @200	D13 @200	
FCS1	400	上	D19 @150	D13 @200	モチアミ配筋
		下	D19 @150	D13 @200	
FCS2	600	上	D19 @150	D19 @150	モチアミ配筋
		下	D19 @150	D19 @150	

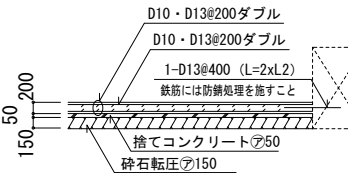
壁リスト 1:50

符 号	EW18	W18	W15
壁 厚 (mm)	180	180	150
断 面 (鉛直断面)			
縦 筋	D13@150ダブル	D13@200ダブル	D13@200ダブル
横 筋	D13@150ダブル	D13@200ダブル	D13@200ダブル
縦筋	4-D13	4-D13	4-D13
横筋	4-D13	4-D13	4-D13
斜筋	2-D13	2-D13	2-D13
備 考			

土間コンクリート要領 (MS1)

共通事項（特記なき限り）

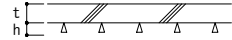
- ・構造スラブと接する箇所は目地（意匠図参照）を設けること。
- ・範囲は意匠図による。
- ・構造スラブと接する箇所は1-D13@400（ $L=2 \times L_2$ ）を設けること。
- ・5.0mx5.0mグリッド程度でカッター目地（ $D=20$ ）を設ける。



<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第344460号 構造設計一級建築士 建築士証交付番号 第9667号 足立 幸多朗	工事名称 那須塩原市新庁舎建設工事	図面番号	
図面名称 【庁舎】 鉄筋コンクリート部材リスト A1=1/ 50 A3=1/100	種別	構造	
発注者 那須塩原市	S- 136		

フラットデッキ付スラブ要領

コンクリート厚 t (mm) は 床版リストによる。



- ・フラットデッキ厚は 以下を基本とし、実スパンに応じ、作業時の安全性を確保できるように設定すること。

- ・亜鉛メッキ付着量は 屋外露出部 Z27、屋内部は Z12 とする。

材 質		材 質
品 材 質		<p>○ 材質はJIS規格（JIS G 3302「溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」又はJIS G 3321「溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯」）に適合していること。（相当めっき厚さは表-1 による。）</p> <p>確認方法は鋼材検査証明書（ミルシート）または引張試験によること。</p> <p>降伏点 : 205N/mm² 以上</p> <p>引張強さ : 295N/mm² 以上</p>
	質 寸 法	<p>○ 断面形状、加工長さの寸法精度が良好であること。</p> <p>寸法許容差</p> <p>全せい許容差 : ±3mm</p> <p>働き幅許容差 : +8mm、-5mm</p> <p>長さ 許容差 : +10mm、-5mm</p> <p>エンドクローズ長さ許容差 : +10mm、-5mm</p> <p>○ 厚さの許容差は 表-2 に適合していること。</p>
	変 形	横曲がり : 全長の0.2%以下
性 能	許容たわみ	スパンの1/180+5mm 以下
	曲げ強さ	$\frac{\text{最大荷重（試験値）}}{\text{許容荷重}} \geq 1.3$
	支圧強度	$\frac{\text{最大荷重（試験値）}}{\text{最大支圧荷重}} \geq 1.5$

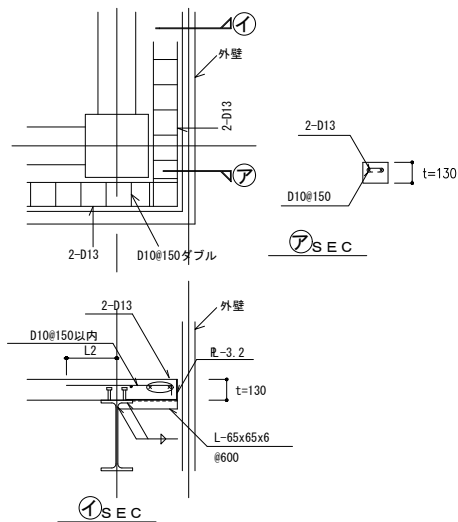
表-1 相当めっき厚さ (単位: mm)

適 用	JIS G 3302		JIS G 3321		
めっきの付着量表示記号	Z12	Z27	AZ90	AZ120	AZ150
相当めっき厚さ	0.026	0.054	0.033	0.043	0.054

表-2 厚さ許容差 (単位: mm)

表 示 厚 さ (t)	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6
冷 延 原 板	±0.08	±0.09	±0.09	±0.11	±0.13
熱 延 原 板	—	—	—	—	±0.18

(備考) 厚さ許容差は、表示厚さに表-1の相当めっき厚さを加えた数値に適用する。
ただし、表示厚さは JIS G 3302、JIS G 3321 の原板厚さをいう。

鉄骨柱まわり および キャンチスラブ配筋要領

梁貫通孔補強要領

共通事項（特記なき限り）

◦ 梁貫通孔補強は下記要領に従い、行うこととする。

◦ 鉄筋コンクリート梁貫通孔補強は 監督職員の承諾を受け、既製品（大臣認定品）による補強も使用可とする。ただし、既製品による補強が現補強同等以上であることを提示し 監督職員の承諾を得ること。

◦ 補強計算は無孔梁のせん断耐力を保証するものとし、梁端Mu時に基づくせん断力式は用いない。

◦ 鉄骨梁部分の梁貫通補強はS-07図による。

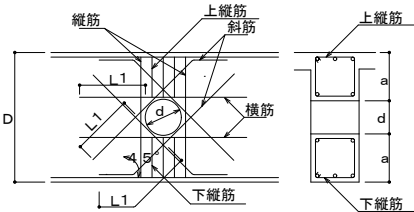
(a) 鉄筋コンクリート部分の梁貫通孔補強

(1) 梁貫通孔位置 補強対象孔については S-02図 に準じる。

(1階梁は原則、150φ超の貫通孔は柱面から1.0m程度以内貫通不可)

(2) ビットの連通管100φ、通気管150φ（半割）の位置は意匠図による。（補強不要）

(3) 貫通孔径150φ未満で、補強を必要とする場合は補強筋の配筋種類は H1 とする。

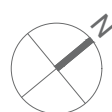


H形配筋

配筋種類	補 強 筋				配筋図
	斜 筋	縦 筋	横 筋	上下 縦筋	
H 1	2-2-D13	—	—	—	
H 2		2-2-D13			
H 3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 4	4-2-D16				
H 5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H 6	4-2-D19				
H 7	4-2-D22	4-2-D16	2-2-D16	3-2-D16	
H 8	4-2-D25				
H 9	4-2-D29	4-3-D16	2-3-D16	3-2-D16	
H 1 0	4-3-D29				
H 1 1	4-3-D32	4-4-D16	2-4-D16	3-2-D16	
H 1 2	4-4-D32				
H 1 3	4-4-D19	4-5-D19	2-5-D16	3-2-D16	
H 1 4	4-5-D32				
H 1 5		4-5-D22			

鉄筋コンクリート梁貫通補強リスト																	
1階梁			2階梁			3階梁			4階梁			R1階梁			小梁		
符号	サイズ	配筋種類	符号	サイズ	配筋種類	符号	サイズ	配筋種類	符号	サイズ	配筋種類	符号	サイズ	配筋種類	符号	サイズ	配筋種類
G1	250Φ	H6	G2A	300Φ	H4	G2A	300Φ	H5	G2	300Φ	H4	G2	300Φ	H5	b3	250Φ	H3
	300Φ	H7	G3	300Φ	H5	G3	300Φ	H5	G3	300Φ	H6	G3	300Φ	H4	b3A	250Φ	H3
G1A	250Φ	H6	G4	300Φ	H6	G3A	300Φ	H6	G3A	300Φ	H5	G4	300Φ	H5	b4	250Φ	H3
	300Φ	H6	G5	250Φ	H6	G5	250Φ	H5	G5	250Φ	H4	G4A	300Φ	H5	b4A	250Φ	H2
G2	300Φ	H6	G6A	300Φ	H7	G6	300Φ	H5	G6	300Φ	H5	G5	250Φ	H3	b5	250Φ	H2
	600Φ	H8	G6B	300Φ	H8	B1	250Φ	H4	G6A	300Φ	H5	G6	300Φ	H3	b5A	250Φ	H2
G3	250Φ	H5	B1	250Φ	H4	B1A	250Φ	H4	B1	250Φ	H3	G6A	250Φ	H5	b6	275Φ	H3
B1	300Φ	H6	B1A	250Φ	H4	B2	250Φ	H4	B1A	250Φ	H5	B1	250Φ	H3	b7	250Φ	H3
B1A	300Φ	H6	B2	250Φ	H7	B2A	250Φ	H5	B2	250Φ	H3	B2	250Φ	H4		275Φ	H3
B1B	300Φ	H6	B2A	250Φ	H7	B3	275Φ	H5	B2A	250Φ	H4	B3	250Φ	H3	b7A	300Φ	H2
B1C	300Φ	H6	B3A	300Φ	H5	B3A	275Φ	H5	B3	275Φ	H3				b8	250Φ	H3
B1D	300Φ	H6	B4A	300Φ	H6	B4	275Φ	H4	B3A	275Φ	H4					275Φ	H3
B2	300Φ	H7				B4A	275Φ	H5	B4	275Φ	H4					300Φ	H3
B2A	600Φ	H9							B4A	275Φ	H5				b9	250Φ	H4
B3	300Φ	H7														300Φ	H4
B3A	600Φ	H9															
B4	600Φ	H9															
B5	300Φ	H7															
B5A	300Φ	H7															

＜構造設計者＞ 一級建築士 国土交通大臣登録 第344460号 構造設計一級建築士 建築士証交付番号 第9667号 足立 幸多朗	工事名称	那須塩原市新庁舎建設工事	図面番号	
	図面名称	【庁舎】梁貫通要領	種別	構造
	発注者	那須塩原市	S- 151	



共通事項（特記なき限り）

共通事項（特記なき限り）

- □ は スラブ・小梁天端 FL-900 とする。
 - □ は スラブ・小梁天端 FL-50 とする。
 - □ は スラブ・小梁天端 FL+100 とする。
 - スラフ下（または天）端と梁天（または下）端とレベルが生じる場合は梁天（または下）端を 増打 とする。
 - X10-X11間にコンストラクションジョイントを設ける。
- コンクリートの乾燥収縮を考慮し、1ヶ月程度の期間をあけてコンクリートを後打ちする。

<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第344460号 構造設計一級建築士 建築士証交付番号 第9667号 足立 幸多朗	工事名称	那須塩原市新庁舎建設工事		図面番号	
	図面名称	【庁舎】1階梁貫通伏図	A1=1/200 A3=1/400	種別	構造
	発注者	那須塩原市		S- 152	

梁貫通孔補強要領

共通事項（特記なき限り）

◦ 梁貫通孔補強は下記要領に従い、行うこととする。

◦ 鉄筋コンクリート梁貫通孔補強は 監督職員の承諾を受け、既製品（大臣認定品）による補強も使用可とする。ただし、既製品による補強が現補強同等以上であることを提示し 監督職員の承諾を得ること。

◦ 補強計算は無孔梁のせん断耐力を保証するものとし、梁端Mu時に基づくせん断力式は用いない。

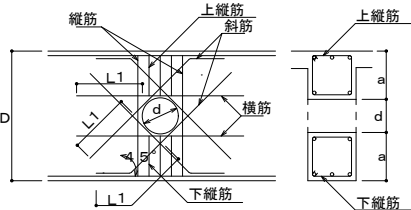
◦ 鉄骨梁部分の梁貫通補強はS-07図による。

(a) 鉄筋コンクリート部分の梁貫通孔補強

(1) 梁貫通孔位置 補強対象孔については S-02図 に準じる。

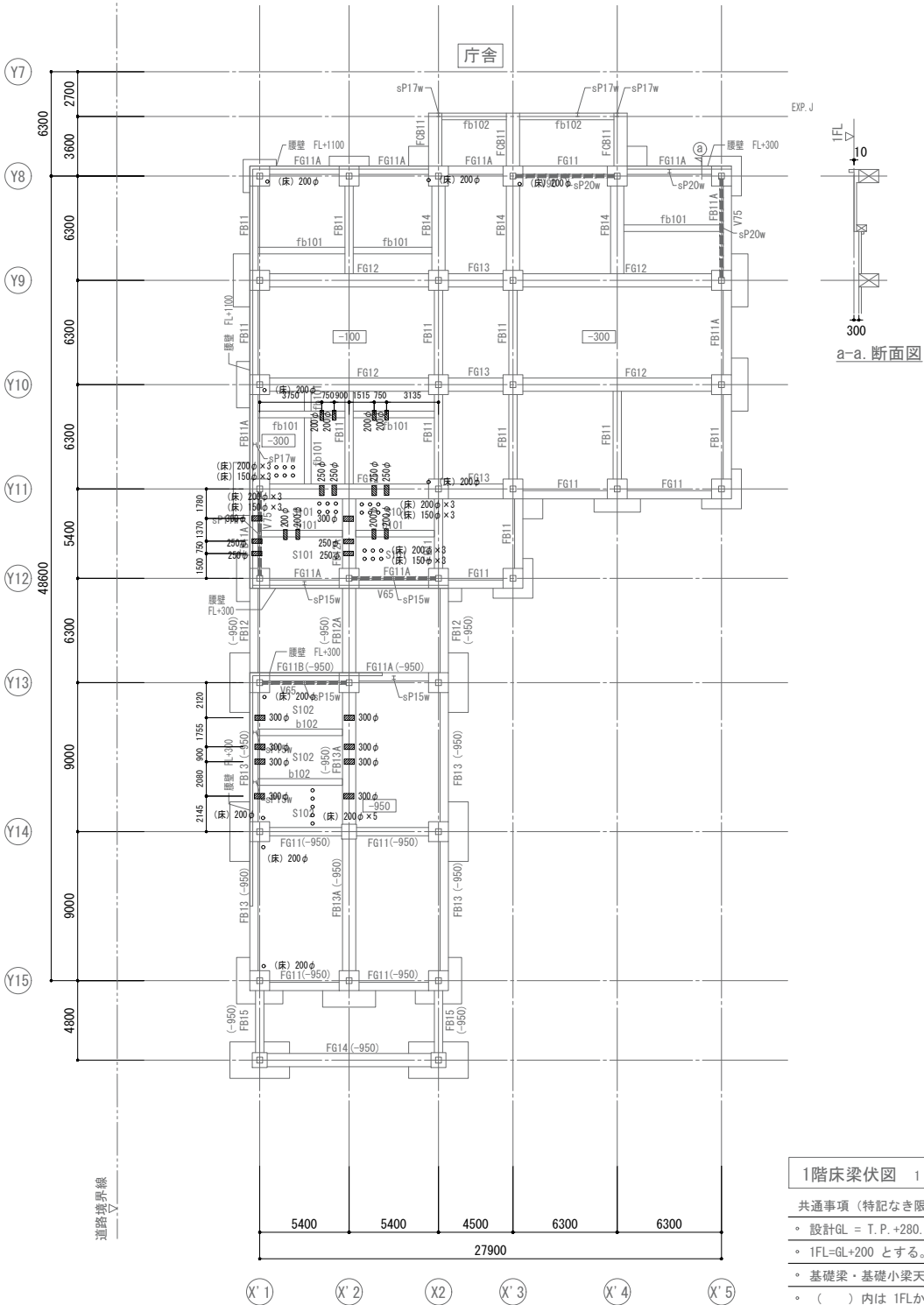
(1階梁は原則、150φ超の貫通孔は柱面から1.0m程度以内貫通不可)

(2) ビットの連通管100φ、通気管150φ（半割）の位置は意匠図による。（補強不要）



鉄筋コンクリート梁貫通補強リスト					
1階梁					
符号	サイズ	配筋種類			
FG12	250Φ	H5			
FB11A	250Φ	H3			
	300Φ	H4			
FB12A	250Φ	H5			
	300Φ	H5			
FB13	300Φ	H4			
FB13A	300Φ	H5			
b101	200Φ	H3			
fb101	200Φ	H3			

配筋種類	H形配筋				配筋図
	斜 筋	補 筋	強 筋	上下 縦筋	
H 1		—		—	
H 2	2-2-D13	2-2-D13	—	—	
H 3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 5	4-2-D16				
H 6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H 7	4-2-D22				
H 8	4-2-D25	4-2-D16	2-2-D16	3-2-D16	
H 9	4-2-D29	4-2-D16	2-3-D16	3-2-D16	
H 10	4-3-D29	4-3-D16	2-3-D16	3-2-D16	
H 11	4-3-D32				
H 12	4-4-D32	4-4-D16	2-4-D16	3-2-D16	
H 13	4-4-D32	4-4-D19	2-4-D16	3-2-D16	
H 14	4-5-D32	4-5-D19	2-5-D16	3-2-D16	
H 15		4-5-D22	2-5-D16	3-2-D16	



1階床梁伏図 1：400

共通事項（特記なき限り）

◦ 設計GL = T.P.+280.3m とする。

◦ 1FL=GL+200 とする。

◦ 基礎梁・基礎小梁天端は 1FL-300 とする。

◦ () 内は 1FLからの梁天端を示す。

◦ スラブは 土間コンクリート MS101 とする。

◦ スラブ天端は FL-10、小梁天端は FL-160 とする。

◦ □ 印は スラブ天端 FL-50 とする。

◦ □ 印は スラブ天端 FL-100 とする。

◦ □ 印は スラブ天端 FL-300 とする。

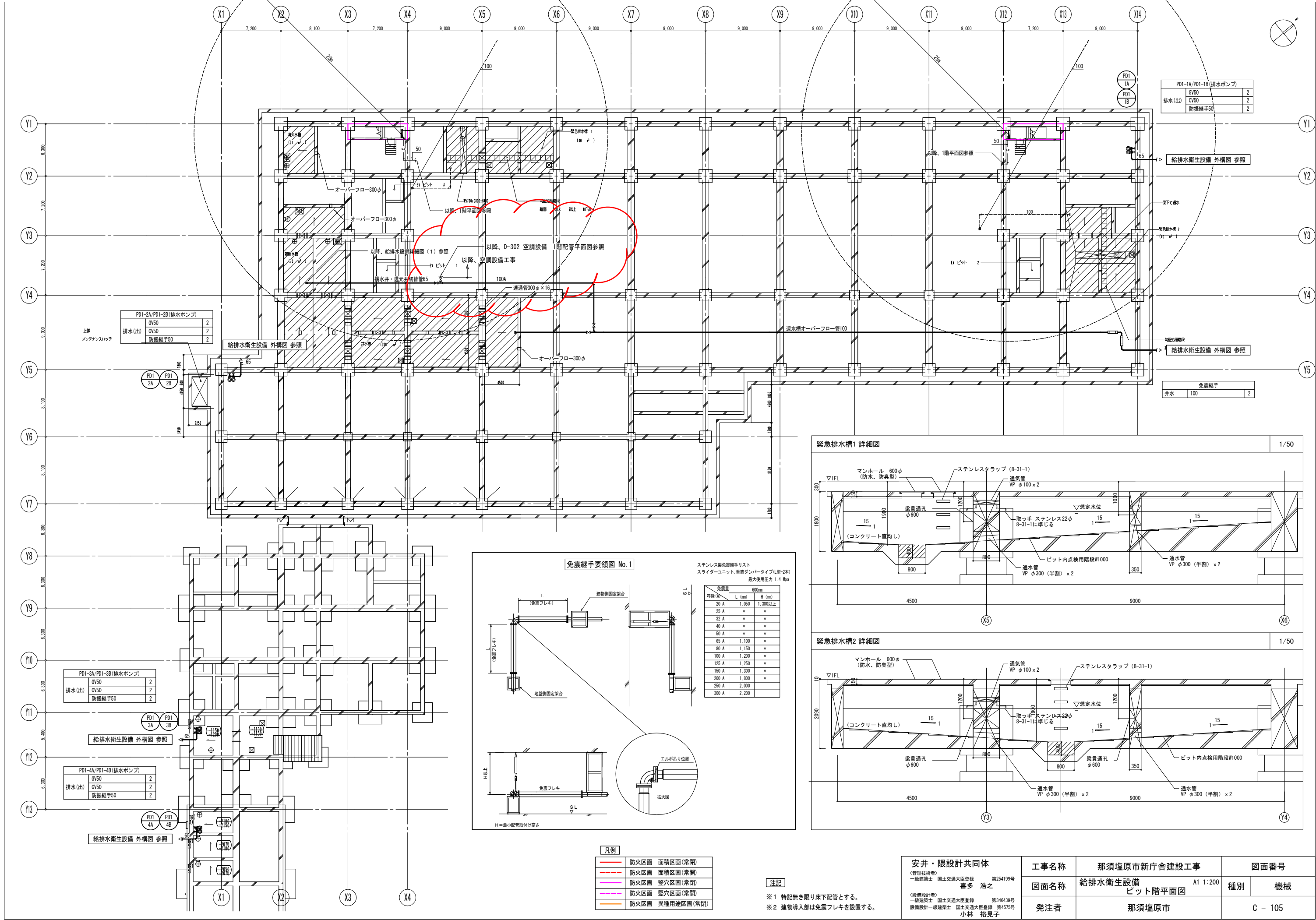
◦ □ 印は スラブ・小梁天端 FL-950 とする。

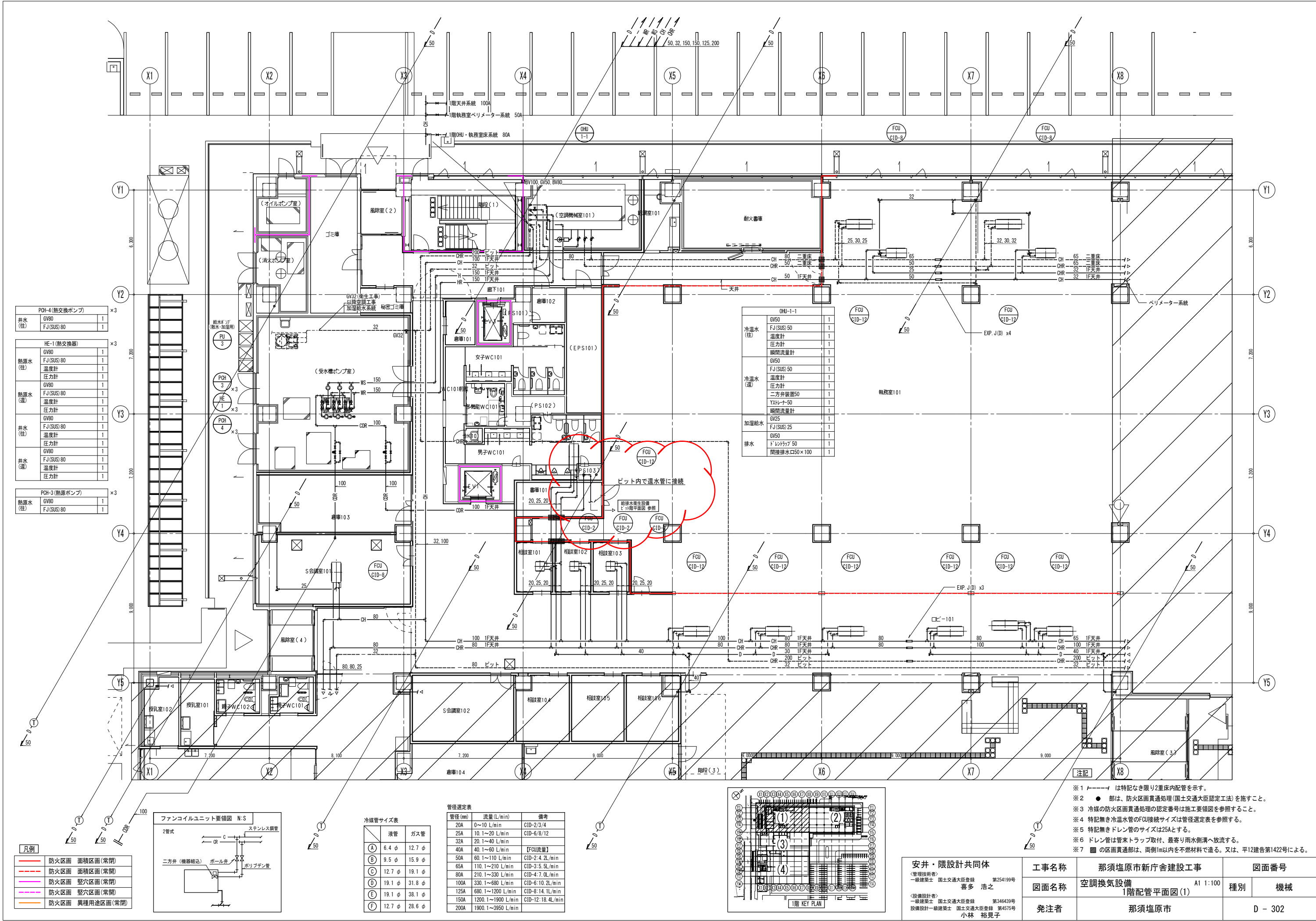
◦ □ 印は FL-10から FL+100まで スラブ増打とする。

◦ □ 印は 腰壁 を示す。

◦

〈構造設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第344460号 構造設計一級建築士 建築士証交付番号 第9667号 足立 幸多朗	工事名称	那須塩原市新庁舎建設工事		図面番号	
	図面名称	【市民ゾーン】梁貫通伏図 A1=1/200 A3=1/400		種別	構造
	発注者	那須塩原市		S- 210	

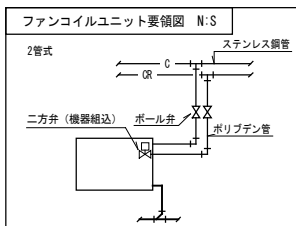




PCH-4(熱交換ポンプ) ×3		
井水(往)	GV80	1
	FJ(SUS)80	1
HE-1(熱交換器) ×3		
熱温水(往)	GV80	1
	FJ(SUS)80	1
	温度計	1
	圧力計	1
熱温水(還)	GV80	1
	FJ(SUS)80	1
	温度計	1
	圧力計	1
井水(往)	GV80	1
	FJ(SUS)80	1
	温度計	1
	圧力計	1
井水(還)	GV80	1
	FJ(SUS)80	1
	温度計	1
	圧力計	1
PCH-3(熱源ポンプ) ×3		
熱温水(往)	GV80	1
	FJ(SUS)80	1

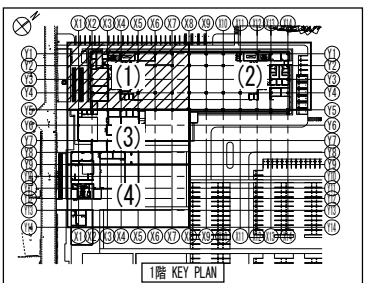
OHU-1-1		
冷温水(往)	GV50	1
	FJ(SUS)50	1
	温度計	1
	圧力計	1
	瞬間流量計	1
冷温水(還)	GV50	1
	FJ(SUS)50	1
	温度計	1
	圧力計	1
	二方弁装置50	1
	YAH-1-50	1
	瞬間流量計	1
加温給水	GV25	1
	FJ(SUS)25	1
	GV50	1
排水	ドレトラフ 50	1
	間接排水口50×100	1

凡例
防火区画 面積区画(常閉)
防火区画 面積区画(常開)
防火区画 壁穴区画(常閉)
防火区画 壁穴区画(常開)
防火区画 異種用途区画(常閉)



冷媒管サイズ表		
	液管	ガス管
A	6.4 φ	12.7 φ
B	9.5 φ	15.9 φ
C	12.7 φ	19.1 φ
D	19.1 φ	31.8 φ
E	19.1 φ	38.1 φ
F	12.7 φ	28.6 φ

管径選定表		
管径(mm)	流量(L/min)	備考
20A	0~10 L/min	CID-2/3/4
25A	10.1~20 L/min	CID-6/8/12
32A	20.1~40 L/min	
40A	40.1~60 L/min	[FCH流量]
50A	60.1~110 L/min	CID-2:4.2L/min
65A	110.1~210 L/min	CID-3:5.5L/min
80A	210.1~330 L/min	CID-4:7.0L/min
100A	330.1~680 L/min	CID-6:10.2L/min
125A	680.1~1200 L/min	CID-8:14.1L/min
150A	1200.1~1900 L/min	CID-12:18.4L/min
200A	1900.1~3950 L/min	



- ※ 1 ー --- ー ー は特記なき限り2重床内配管を示す。
- ※ 2 ● 部は、防火区画貫通処理(国土交通大臣認定工法)を施すこと。
- ※ 3 冷媒の防火区画貫通処理の認定番号は施工要領図を参照すること。
- ※ 4 特記なき冷温水管のFCH接続サイズは管径選定表を参照する。
- ※ 5 特記なきドレン管のサイズは25Aとする。
- ※ 6 ドレン管は管末トラップ取付、最寄り雨水側溝へ放流する。
- ※ 7 ■ の区画貫通部は、両側1m以内を不燃材料で造る。又は、平12建告第1422号による。

安井・隈設計共同体		工事名称	那須塩原市新庁舎建設工事	図面番号
〈管理技術者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第254199号 喜多 浩之		図面名称	空調換気設備 1階配管平面図(1)	種別
〈設備設計者〉 一級建築士 国土交通大臣登録 第346439号 設備設計一級建築士 国土交通大臣登録 第4575号 小林 裕見子		発注者	那須塩原市	機械
				D - 302

フローリング断面詳細参考図

